# 公民館報 こすど

發行所
小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
編集兼発行印刷人　矢部藤三郎

〝神武天皇以来の大景気だ〟きくだけでもゾク〲と心が躍る思いがする。ホントウにそんな大景気があるのだろうか、私達のふところへのおすそわけはいつ来るのだろう。アヽいやな悪夢はサル年と共にサラリと西方にサルことにして、新しいトリ年に因んで何んとかその大景気がいく分でもトリたい、皆で幸福を共にしたいという念願から去月十九日別項のような各種団体長さんの方々のお集りを願つて新春放談会を催し、開つ放しのお話をお伺いした。

# 新春放談

## 病院 矢代田校建てる
## 信江河畔へヘリコプター発着地
## 農家の長男に嫁がない

**館長挨拶**

明けましておめでとうございます。暖冬異変だと申しましても、寒い折り皆様からお集りいただき大変ありがとうございました。先日の編集会議で各種団体の代表の方々に今年の希望抱負を軽い気持で新春放談ということでお話いただけたら面白く有意義ではあるまいかというので企画した訳でございます。司会にはその道のベテラン坂井中学校長さんをわづらわした次第であります。

**祝祭日には國旗をたてましょう**

## 病院・矢代田校建てる
### 火葬場改修は見送り

**坂井司会**

新年おめでとうございます。私に司会せよとのことでございますが、何分不馴でございますので皆様の御援助で大役を務めさせていただきたいと思います。何分よろしくお願いいたします。

綜合的見地に立つた場合公民館もいろいろな意味で一役かわなければならないと思うのだが、こういう催しも綜合調整の場として良い計画だつたと思います。それで各界代表の皆様から三十二年の施〻抱負を裃をぬいでごく軽い気持でお話し願いたいと思います。それでは最初に町長さんからお願いいたします。

**長谷川町長**

役場のやること自体が町民皆さんの抱負でありますがいまその二、三を申し上げて更に一層の御協力をお願いしたいと思います。

何んといつても町の大問題は病院の建設でありまして、本年中に是が非でも実現させたいと懸命に努力しております。目下の現況では大分好転しているとはいえ残念ながら県の予算措置がまだでこの点に全力を注いでいます。医師会の反対なども相当大きく響いているようですが、何かそこに政治点弱点があるのではないかと思われます。当方は知事の言質を大きな力とし、それに地元三県議一致の援助を郡町村会地元特別委員の方々が熱心に運動して居られますので、県から予算案が提出されれば充分成立の見込みがあります。

**坂井司会**

予算提出は二月県会の見込ですか。

**長谷川町長**

二月県会の最後になると思います。現在吉田病院では五〇〇万円以上、加茂病院では七〇〇万円以上の黒字で、小須戸も出来れば四〇万円以上の黒字が予想されております。病院局でも積極的に出ております。

❷次ぎに矢代田校の増改築でありますが、これも今年の仕事として是非やりたいと思つております。運動場は五十年以上になつて危険校舎であるが一部は補助金の対象になつていないが、臨時措置法で補助金、起債があるうちにやつた方がよいという意見もあり、地元でも熱心に敷地の整備をしています。経費は大体千二百五十万円で補助希望地の多い少いによつて変るが大体百五十万円、起債は三百万円位だとのことですが何んとか政治力をもつて四百万円位増して貰いたいと思つて居ります。残額は町民の皆様から小学校の時と同様に貸して貰いたいと考えておりますが、教育委員会とよく相談連絡して三十二年特別会計として進めたい予定です。

❸火葬場の改修問題ですがこれを云い出し手をつけた人が一番さきに行くといわれているので皆さんがイヤがつているようですが、町のためなら私がイノ一番に焼かれてもよいと思つておりますので(笑)何んとかしたいといろ〲研究して起債申請を数回やつたのですが全額起債はむずかしいし町としても今金はないし今年は止むを得ず見送ることにしましたが、いづれ何とかしなければならないと思つて居ります。

❶つぎは道路の補装ですが、以前三番町で立替えても是非やりたいという話もありましたが、反対の町内もあつて出来なかつたのです。今では最早近隣の町が殆んどやつております、費用は大体千二百円位で県が四割町が三割残りは各町の地元負担となつている。それで補装貯金でもしてはどうかと思うので、嘱託員会議を開いて相談をしたいと考えております。

**坂井司会**

お話は大部商店関係になつて来ましたがこの辺で商工会の御意見をお聞きしたいと思います。

## 補装は年次計画で
### 消防用水の完備を

**渡辺商工会理事**

会長さんの抱負は改めて海津さんからお願いするとして、只今の補装の話ですが、この附近でやつていないのが小須戸町だけで、白根町はまだですが補装貯金をやつているので近い内に始めるものと思います。この前三番町の計画があつた時は町の真中だけでもということで一致しなかつたようですが、町で年次計画をたてゝやつて貰いば町民は協力を惜しまないと思う。

次ぎに消防用水の事ですが、町の上の方はとも角四番町の下の方で出火した場合用水の不便のため見ながら焼かなければならない事も起るのではないか、現在の状態では町民は火災保険に入つて自分で自分を守らねばならぬ有様だと思います。

**坂井司会**

これについて消防団長さんの御意見は

## 小型自動車ポンプ
### 消防池は計画中

**笠原消防團長**

他県の都市に矢つぎ早やに大火が起り大きな損害を与えているが、その原因の九五%は火の不始末から起されています。幸に小須戸町では三十年度、三十一年度も無事故ですが、決して油断はなりません。お互に充分火に気をつけていただきたいと思います。

消防は機械力による事が大きく、町財政多端の折りではありますが、小型自動車ポンプの購入を願いたいと思つております。

消防池も毎年増やし整備しております。現在下町に一ケ所かなり大きなものを設計中ですが、これは五番町裏で、地主の承認を得られず未着手です。

**渡邊商工会理事**

二三年も出火のないのは誠に結構ですが、万一の場合の備いだけは充分にしていたゞきたい。

## 教育熱の振興と
### 工場誘致産業振興に

**坂井司会**

ではこのへんで一寸むきを変いて教育長さんから町教育について願います。

**佐藤教育長**

委員会の意見としてではなく私個人の考えを申します。

矢代田校の増改築は昭和三十二年度最大の仕事で是非実現させたいものであり、町長さんからもお話がありましたように町財政の面からも容易ならぬ事で、町会でも出来る限り早くこれが財源の確保に努力していたゞきたいとお願いいたします。

次ぎに金の要らぬ抱負としては、現在町の中学校小学校ともに名校長をいただき、職員組織もととのつて来ている。教育は、由来施設より先づ人だ、この陣容の出来たのを機会として四校協力して教育上の研究を遂げ町の教育熱を盛り上げていたゞきたい。

社会教育はその中核をなすは公民館で、今まで数々の表彰に輝く歴史を受けつぎ、この上とも公民館活動の中心をなす青年団婦人会をもり上げて益々活潑な運動をお願いする。

職員の過労は目のあたり見ているが、今年は無理としても、近い将来に増員も考えて欲しいと思う。

行事がマンネリズムにおちいる事なく、新機軸を出すようにしてはどうか。

最後に町財政を豊にするために工場誘致、産業振興に一段と努力され町に一層の力をつけたいと念ずるものであります。

## 農村の振興発展は町に直結
### 農家の人材養成が急務

**坂井司会**

更に方面を変いて農協組合長さんから

**丸山農協組合長**

問題を農村にしぼつて考えた場合、農村の組織運動は一応成功しているようですがまだ農協理念が徹底してない向きもあり、全幅の協力をしていない者もあります。この意味において、今後は農村教育特に青壮年教育を計画中であります。

次ぎは、生産増強に力を注ぎたい。今年は昨年にくらべて供米だけで七千俵、実際は一万俵不足です。この金額がザット四千万円で、県立病院も矢代田校の増改築も直ぐに出来上る金額であります。

昨年はウンカの異常発生の減収がすぐ町の経済にひびくので、農村の振興発展は町の振興発展に直結するといつても決して過言でないと思います。

いろ〲の点から見ても、農家の人材養成が現在急務であり一番大切なことと思います。

同じ一段の畑でもある人は野菜など自家用の外に市毎に売るが、ある人は自家にやつと間に合う程度の家もあります。

増産については、農家自体が非常に熱心にやつているが、予防補助には町でももつと真剣に考えて欲しいと思います。

### 出席者

| | |
|---|---|
| 町長 | 長谷川鉄太郎 |
| 郵便局長 | 五十嵐徳次 |
| 商工会長 | 海津良助（紙上参加） |
| 〃専務理事 | 渡辺平七 |
| 教育長 | 佐藤五郎 |
| 農協組合長 | 丸山清三郎 |
| 消防団長 | 笠原平四郎 |
| 連婦会長 | 川村マツ |
| 連青団長 | 五十田清一 |
| 司会 | |
| 中学校長 | 坂井富三郎 |
| 広報部 | 小柳円暢 |
| | 柏大治 |
| | 矢部藤三郎 |
| 公民館 館長 | 宮崎純能 |
| | 青木マツミ |

（順不同敬称略）

**長谷川町長**

補助については町部の理解が足りないように思いますネー。

税の負担も農家が割合に大きいですからネー。

**坂井司会**

それでは今度グット方面を変いて局長からお話を願います。

## 皆さんの郵便局に
### 信江河畔に
### ヘリコプター發着場を

**五十嵐局長**

郵便、替為、貯金、保険年金から電信電話などまことに地味な仕事でありますが皆さんの生活が明るくなるか、暗くなるか、向上するか、生活に直接つながりのある仕事であります。

先程人の問題が出ましたが、私も同感であります。

㈠優れた人を見出すことが第一で、それに適格技能訓練と高度な教養を高め、健康と衛生の助長に重点をおきたいと考えています。

最近オートメーションとか機械化ということが盛に叫ばれておりますが郵便局の仕事は、人の力にまつところが多いので優れた人を多く集めることが、最も大事な一面です。

幸に小須戸局では優秀な人がそろつて、成績がよく、おかげ様で長野郵政局管内で千七八百局中に優良一〇局中に入つております。

大臣賞も数回いただいておりますが、これも皆様の温い御協力の賜と感謝しております。

㈡運営と管理に重点

官業独占であつてはならない。あくまでも皆さんの郵便局として出来るだけ改善して、皆さんの気に合つた運営をしてゆきたいと思つています。

(1)アンケートの実施

広く皆さんの意見、要望、苦情などをきいて改善をはかりたい。

(2)PRの実施

業務の内容をよく知つて貰つて充分に利用を願いたい。

(3)電話交換能率の増進

家号や名前で呼ぶと、交換能率が低下するので今年から全部番号で呼んで貰いたい。

㈢小須戸町を中心とした通信網の拡充は、町発展に最も重要な一面と考え今年は特に川向へ方面に重点をおき、無電話部落の解消を目指して強力に推したい。

◎下八枚、上八枚から十二道には、公衆サービス電話を新設する。下八枚は二月中に完成の見込

湯田上方面への直通線の延長、交換台の増設と新電話器の倍増に努力中（五月中に完成の予定）であります。

㈣町の発展と融資に努力

郵便貯金と簡易保険の積金は、地方還元の原則によつてすでに中学校外六ケ所に数千万円の融資をしております。

㈤町村合併と通信区の一致が望ましい。

小須戸、小合、臼井、庄瀬の旧一町三ケ村が小須戸局の通信区でありますが、信濃川を中心とした経済面を一町村に合併し、一通信区の実現を切望します。

㈥私の夢

信濃川の河状整理と共に、雁巻の水上を活用しヘリコプターの発着場を設置したい。最早や汽車の時代は去つて、飛行機の時代となりました。雁巻にある広大な水上空地も河状整理によつて一層広くなるものと思いますが、それを通信運輸旅客の航空輸送、ヘリコプターの発着場にして、小須戸の繁栄の夢を実現したい皆さん如何でしょう。

## 駅名改称に
### 大乗的御協力を
### 資金導入と
### 健全娯楽場

**海津商工会長（紙上参加）**

矢代田駅名の改称は長い間の懸案で、町の商工業者には大きく利害のある大問題であります。

小須戸町が自主独立と定つた今日、矢代田の皆様からも大乗的精神で協力していただき、今年は是非実現したいと願うものであります。

次ぎに、資金導入の面は、従前以上に取り入れたいと考えております。

また、若い人達が安直に健康的に遊べる設備、場所をつくり、新潟や新津へ行かなくとも充分に楽しめ、それ以上に近村の青年達までが気持よくこの町へ寄つて来られるようにしたいと考えております。

## 講師のお話に集りが悪い
### バザー 花賣りは続けたい

**坂井司会**

話は大分面白く飛躍的になつて参りました。婦人会の方はいかがですか。

**川村婦人会長**

これと云て改めて申上げるような事もございませんが、県や郡の総会でもそうですが、連合でも町部の総会でも皆様に聴いていただきたいと思う講師のお話の時、集りが少く困りますが、午後のレクリエーションには、多勢集るのがいつもの例で昨年講師のお話を午後にして見たら大変良かつたので、今年も是非そうしたい考えでおります。

それから、文化祭の時のバザーと、お正月の花売りはいろ〲御話もありますが、是非今後も続けてゆきたいと思つております。それで活動資金をつくつて、今までのように町の社会教育や社会事業の方面に出来るだけの寄附をしてゆきたいと考えております。県郡あたりから種々の指令があつた場合いつも早く完了してほめられて居りますが、これは偏に会員皆様が和合一致して事にあたられる賜でホントウに嬉しく思つております。こういう気持をいつまでも続けていただきたいと念願しております。

## 農家の長男に嫁がない
### 自主的芽生え伸したい

**坂井司会**

青年団の方は如何ですか。

**五十田連青團長**

先づ第一に青年団は社会教育団体としての性格に徹すべきだと思います。戦後十一年青年団の歩みを振り返つて見ますと三段階にわかれていると思います。「頽廃混迷の時期」「自覚した役員のみの団体としての時期」それに「現在」だといつていいだろうと思います。現在は、個人の自主性のみ強調され過ぎるように感じます。指導者、役員によらず、団体の中で個人をのばすことも大切のことで、役員の研究集会等でも新、旧の差がはげし過ぎるかに思われます。何といつても単位団の自主的芽生えをのばすことが連青としての大きな仕事だと考えています。グループ活動によつて人の改造も必要でありましょう。

〝農家の長男に嫁に来てがない〟なんていうこともよく聞きます。集会などでよく発言する女性は、会合では非常に重宝がられますが、家庭には不向だなどという事ではいけませんネー。

経営の合理化、家庭の民主化ということについて考えても、女性の心構えが大切だと思います。

次に今後考えて行かねばならないことは、単位団のレベルを同一にすること、町部青年団の結成自治政治の勉強です。

要するに今後の青年団活動は、役員も団員も共に楽しみながら勉強して行く永続的な青年活動でありたいと考えます。

# 早く来い来いお正月

## （新暦正月を提唱）

佐藤隆禅

”早く来い来いお正月“雪が降りだすと子供達は歌い出します。私が子供の頃そう歌つたものでした。しかし、お正月の来てくれた所は一月一日の学校の四方拝式場だけでした。帰り道「今日はお正月じやなかつたな、パンもらいだつたな」と話しながらもらつたパンを食べ終える頃家につきます。

さてお昼の膳に座ると香りも高き今朝のあつためぞうすい……おぞうにではありません……を流し終える頃にはもう校長先生や、町長さんやお偉方のおめでたい話など頭のどこにもくつついていません。

この頃はどこの家庭でもラジオや新聞、雑誌あらゆるもので「早く来い来いお正月……」をやつて居ります。十二月三十一日の晩は、塩びきをこつそりと、一月一日には餅をこつそりと、日陰者のように他所に来たお正月に食べて居ります。見て居ります。聞いて居ります。そして、

「今度いくつになつたかな」

「ほんだ、まだおらつての年とらねろも、年が明けたすけ五十四らな」

と、まるで他人の年をとつて自分のふところに入れ、それをこつそり勘定するような話をして居ります。日陰で年が明けては明るい町に発展する筈がありません。

「もう時代が違うんだ」とよく言われますが、確かにそうなんです。明治の新政府が大陽暦を採用したのは明治五年。八十五年前の事です。電信の開通が明治二年、新聞が毎日発行されるようになつたのが明治三年、鉄道の開通が明治五年、郵便の制度が明治六年、東京の銀座にガス燈がともつたのが明治八年……です。

わが町は旧暦ではありませんが、一ケ月おくれです。三十一日おそいのです。まあ旧暦の親類みたいなものでしょう。

今東京、大阪でやつている事が、その今こゝでコタツで猫の背中をなでながらこの目で見える時代なんです。地球上南半球の向う側にあつたメルボルンオリンピックをその時そのまゝこの耳で聞いたではありませんか。選手達の一組は十二月九日の朝出発して十日の朝もう羽田につこり着いたのです。丸一日で行けるわけです。小須戸から四国の金刀比羅様をお参りするのに水盃で泣いて別れを惜しんだ時代ではありませんね。

三十一日間、新聞もラジオも見ざる聞かざるでいたら、きつと浦島太郎が父島流しをくつたようになりはしないでしょうか。新津、新潟、見附、三条、加茂、田上とぐるつと囲まれた白根と小須戸だけは八十年の昔とかわらぬお正月の鎖国をして居ります。どんなに子供が「早く来い来いお正月」と待つても来てくれません。三十一日たつて来てくれたお正月は売れのこりの、いきの悪いお正月みたいです。

生産方法も、センバこきから電動機脱穀機、精米の時代になつて居ります。町の労働人口の大多数の人達は新正月（今更新正月なんて変です）の所で働いて居られる事も考えてみなければなりません。

日々多忙を極める生活の中で、一家うちそろつて朝食をかこむ機会は盆と正月位です。せめて、年とりと三ケ日位はおじいさん、おばあさんからはい〱するお孫さんまでうちそろつて笑顔で塩びきをかみしめ、あん餅をいただきたいものです。一年のほら話に正夢を結びたいものです。一人でも欠けるとなにか落ちつかないものです。みんなが夢を結ぼうとしてる時に次郎は弁当をさげて一番列車に乗りこまねばなりません。その物音に正夢も途中で覚めてしまいます。お母さんは二種類の朝の雑煮に正夢どころか、床につく暇もありません。学校は三学期の途中で休んで強勉はおくれるばかり、役場、農協その他は二回も休んでこんな能率の上らない事でよいでしょうか。他町の大売り出しで買つたので後の大売り出しはもう用がない……なんてこともあるでしょう。

昭和三十二年十二月三十一日に「年をとり」昭和三十三年一月一日に「おめでとうございます」をかわして、明かるい、余りものでない、いきのいいお正月を迎えたいものです。

早く来い来い
お正月

---

# 町民かくし芸大会

二月十七日　午前九時於小須戸（小）校

# 囲碁将棋大会

二月二十四日　午前十時　於公民館

---

# 農村女性はなぜ農家の嫁を嫌うか

去る十五日公民館で連青主催の幹部講習会が開かれた。その時「農村女性はなぜ農村の嫁になる事を嫌うか」と云うテープを聴き我々も種々な点で考えさせられた。その中に云つている主な理由を大別すると、次の四つに別けて説明していました。

第一、男性の心構、第二経営の民主化、第三家庭の民主化、第四女性の心構。みんなもつともな事ばかり云つています。私はもう一度自分の周囲を省りみてこの問題について考えてみました。

**第一**の男性の心構については、今までの自分は本当に相手（女性）の立場になつて物事を考え、本当に妻の味方になつてやる丈けの勇気と自信があつたかと云う事に対しては、確かに消極的な所がありました。この点もつともしつかりした考えを持たなければならないと云う事を痛感しました。

**第二**に経営の民主化と云う点についてでありますが、現在の農村の経営と云えば大半の家は親父がその実権を一人で握つている。他の人はたゞ機械的に使われているに過ぎず、ましてや嫁の立場と云えばいつそうみじめでありました。

こういう経営方針をみて来た我々若い人々が、それに対して不満と疑問を持つのは当然だと思います。そこで自分自身が農家経営のあり方については真剣に考えて来て、はたして農家経営とはたゞ流行だけをおつて農作業を機械化する事が新しい行き方なのか、莫大な費用をかけて台所改善する事が本当の行き方なのか等種々な問題にぶつかつて、自分で解決しようと努力してみますが、自分だけでは解決出来ず、女性の協力を必要とする問題にも必ずぶつかつてくると思います。

こういう問題については現在の女性がもつと真剣に本当に自分の問題としてそれを考えるなら、おのずから農村の嫁になると云う事に一つの楽しみも出てくるだろうし、又張合も出てくる事だと思います。

**次に**家庭の民主化と云う事ですが、今迄の農村の嫁と云えば姑、小姑、親せき等、あらゆる人に圧迫されているのが農村の嫁と云う様に云われて来ましたが、確に大小の違いこそあれ、我々の周囲にそういう事があつたと云う事は認めなければなりません。しかし、この事をすぐ農村の封建性云々と云う前に今迄の農村女性がしつかりした自主性をもつていなかつたと云う事をまず問題にしなければならないと思います。自分の一生を決める縁談に自分の考えと云うのをはつきり云わず、親がきめれば大半の女は嫁いで行くと云うのが今迄の女性であつたと思います。自分は農村の嫁になると云う、しつかりした信念を持つて嫁いで行くなら現在によこたわる因習や封建性、又重労働の問題等について必ず解決出来ると私は思います。

**最后**の女性の心構についてですが、要は今迄の女性がいつたん嫁の座にすわると、もう農村の嫁とはこんなものだ。こういう重労働するのがあたり前なのだと云う、完全にあきらめのかんねんを持つていたのだと思います。自分の妻がそう云う消極的な事なかれ主義の考えしか持たなければ、悪いとわかつていても、男性の方では横暴になる事もあるだろうと思います。

結局、農村の女性が、もつと農村の嫁の座と云う問題を自分自身の問題として、よく考えてみたらおのずからそこに経営の問題にしろ、家庭の問題にしろ明るい結果が出てくると私は思います。

小向　青木進

---

## 御利用下さい

# 赤ちやんの相談

昨年七月から保険施設事業計画として毎月赤ちやんの健康診断並相談を実施しました所、三十一年に生れた赤ちやんは殆んど受診に来られまして熱心なお母さん方の相談に親切なお医者さんの指導がなされて、赤ちやんの為に本当に嬉しいことでございました。その結果を簡単に表しますと

| | 総数 | 栄養種別 | | | 発育 | | | 異常のある者 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 母乳 | 混合 | 人口 | 上 | 中 | 下 | 要治療 | 要指導 |
| 第一回 | 78 | 69 | 9 | 1 | 45 | 31 | 2 | 9 | 9 |
| 第二回 | 102 | 76 | 24 | 2 | 43 | 51 | 8 | 14 | 26 |
| 第三回 | 74 | 54 | 17 | 3 | 36 | 35 | 3 | 8 | 27 |
| 第四回 | 94 | 79 | 13 | 2 | 48 | 43 | 3 | 16 | 26 |

母乳栄養の赤ちやんは四五ケ月位まではそれほど手数も要らず順調に発育するのですけれども、六七ケ月頃になりますとそろそろお母さんのお乳だけでは栄養不足になりますので、離乳に気をつけて下痢等しない様又混合人口栄養の赤ちやんも偏食にならぬ様お母さん方は充分な注意をされて、今回上の部であつた赤ちやんは次回も上であります様、中或は下であつた赤ちやんも上の部をめざしてあせらずにしつかりした計画を立てられ、一歩一歩吾子と共に前進されます様。

家の子は小さくて人目が悪い等と云われるお母さんがありますけどそんな気兼をされず、そう云う赤ちやんこそ健康診断の必要があるのですし、その為に専門のお医者さんをお願いするのですから大いに此の機会を利用されて一人でも多くの丈夫な赤ちやんに育てゝ下さる様お願い致します。

次回は三月初旬の予定です。

尚体重、身長の測定は役場へお出になれば何時でも測定出来る様準備してありますから、気楽においで下さる様お待ちして居ります。

---

## 参加を望む

# 『母と娘の会』

## 二月二十日十時

お互の希望、意見を自由に話合い、家庭においても母と娘、親と子がお互に理解し合い一段と日常の生活を明るく、楽しく築き度いと云う念願から、この度次の要項により「母と娘が相集り語り合う会」を開催することになりましたので、多数の参加を望んでおります。

主催　小須戸町連青
〃　連婦
日時　二月二十日十時
会場　公民館
助言者
増尾県婦人少年室長
日程
午前十時～十二時
講話　増尾室長
十二時～二時
映画　心の晴着他
二時～三時半
母と娘の座談会

---

# 新教育委員に

## 高山市太郎氏

全町民に惜しまれつゝ他界された教育委員、故嶽和清之十氏の後任として、前教育委員として四ケ年の経験ある高山市太郎氏が町議会の同意を得て一月七日付で任命されました。

---

# 水道工事の完工近し

新規四十馬力の直送ポンプも一月末には取付けられ、二月正月から直送による給水が可能になつた。此のポンプ取付と併て沈澱池改造工事も去る一月八日町業者により競争入札が行われ、吉田久衛氏が七五万円で落札された。三月十日迄には昨年から本町懸案の水道改造工事も完工される。

---

# 種痘実施に御協力下さい

定期種痘を左記日時により実施します。該当者は個人通知が行かなくとも当日会場へおいで下さい。

（　）種痘接種日
〔　〕判定日

一、矢代田校　（二月二十七日）〔三月五日〕
地域　矢代田、天ケ沢、鎌倉

二、公民館　（二月二十八日）〔三月六日〕
地域　町部、鶴出古木

三、小須戸小学校　（三月一日）〔三月七日〕
地域　横川、小向、水田、新保、竜玄

時間はいずれも午後一時より三時まで

種痘該当者は

㈠昭和三十一年一月一日より十二月末までの出生児
㈡今年四月小学校へ入学する者全部

---

# 連合婦人会の美挙

## 才末たすけあい運動に

町連合婦人会では、かねて事業益金を各方面に寄附し、感謝されていたが、今回才末たすけあい運動に協力し、町の困つている人達に温い正月を迎えて貰うことゝし二万円を拠出、四十二世帯に各々餅、砂糖、醤油を贈り感謝されている。

---

# 連青卓球大會

## 鶴出古木チーム　三連勝

第四回連青卓球大会はウデコキチームが三連勝をした。

団体の部
一位　鶴出古木青年会
二位　横川　〃
三位　新保　〃

個人男子の部
一位　上田一男（ウデ）
二位　佐藤英雄（〃）
三位　鈴木重男（水田）

女子の部
一位　吉田ハル（横川）
二位　渡辺松美（鎌倉）
三位　上田アヤ子（ウデコキ）

---

# 下越卓球大会

村山県議杯、長谷川町長杯をめぐり覇を競う下越卓球大会は新春早々の二日、小須戸小学校の体育館で開催、下越地方各地より多数参集、若人の熱で寒さも吹きとばし終日敢闘したが成績左の通り

男子団体戦
一位　白根クラブ
二位　袋津チーム
三位　燕チーム
全　小須戸クラブ

男子個人戦
一位　武田（白根）
二位　坂井誠一郎（白根）
三位　奥村幸男（新津）
全　松林慶二（小須戸）

女子団体戦
一位　早通Aチーム
二位　早通Bチーム

女子個人戦
一位　丸田朝子（早通）
二位　今泉（早通）

---

# 御挨拶

小須戸小学校長　岩谷周次

私は名校長関根行治氏の後を受けて栄えある小須戸小学校長に就任いたし千二百有余の皆々様の子供様をおあずかりする事になりました。

私の現在の心境は、統合間もないこの学校によりよき伝統を築き上げたい念願で一ぱいであります。この念願を達成する為に私は「子供を先に」とのスローガンを価値高くかゝげて行きたいと思つて居りますし、その方法は極めて卒直に具体的に皆々様に開陳いたしたいと思つて居りますので、何分の御指導と御批正をお願い申上げます。

よき伝統の保持とよりよき改善への努力は目まぐるしい社会の変遷と共に吾々に情熱と知性に支えられた熟慮とそして勇断を求めて居ます。

私は私を含めた二七名の職員の教育的理想を経とし、子供を含めた地域社会の要求を緯として全き学校経営に四十四才という所謂男ざかりの全情熱を傾けたいと存じて居ります。

特に本校は開校後日尚浅うございます。校舎は新装成りましたものゝ内容施設々備に至りましては末だしの感がありますので、町当局はもとより、PTA、町民各位より格段の御支援を私並びに私の信頼して止まない吾校職員によせ下さいまして、将来の期待をになうあの子供達の幸福と成長の礎となつていただきたいと存じます。

終りに皆々様のよき迎春を祈りつゝ就任の挨拶といたします。

---

# 2月購入図書

**現代**
◇君なくや母となりても　吉屋信子
◇大番　獅子文六

**時代**
◇梅里先生行状記　吉川英治
◇赤城の雁　子母沢寛
◇三国志（五）　吉川英治
◇鍔鳴り天狗　陣出達朗

**随筆**
◇いろ艶筆　佐藤弘人
◇包む　幸田文
◇天狗の羽風　尾崎一雄
◇旅路のはてに　本多顕彰
◇らくがき帳　武野藤介

**教養**
◇運命の開拓　大庭孝平
◇メスとオス　岡田要
◇幸福への手帳　福田恒存
◇文学的映画論　野間宏外

**ホンヤク**
◇汚なき悪戯　サンチエス、シルベ
◇動物記（三、四）　シートン選集
◇ある微笑　サガン
◇仔鹿物語　ロリングズ
◇メイム叔母さん　パトリツクデニス
◇ジャイアンツ（上）　エドヤーフアーパー

**ユーモア**
◇貴女は愛していない　鹿島孝二
◇流れ星三四郎　城戸礼

**歴史**
◇牧野富太郎自叙伝　牧野富太郎

**記録**
◇匪賊と共に　三上綾子
◇石をもて追われる如く　国分一太郎
◇警視庁　神戸正雄

**雑誌**
◇栄養と料理　二月号

---

# 火之用心

本町に今年ヒノエウマが当つた火早いといわれます。お互に火の元に充分気を付けましょう。